

伊予市

じんけん教育

2009
No.

9

一人一人の人權が尊重される、明るい伊予市をめざして

編集・発行／愛媛県人権教育協議会伊予市支部・伊予市教育委員会（〒799-3113伊予市米湊768番地2 ☎089-982-5155）



(みんなで食べる
とおいしいよ!)

山と海、両方の自然が同時に味わえる豊かな自然環境で、子どもたちは明るく素直に成長していますが、近年、少子化により園児数が減少しています。そんな中において、小規模園の特色を生かし、異年齢保育の充実や地域の人たちとのかわりを大切にした保育を行っています。異年齢集団の中で、子どもたちはさまざまな人とかかわりながら「自立と自律」を学び、「コミュニケーション能力」を高めていきます。この過程を大切にしながらサポートをし、子どもたちの成長を見守っています。



(おいしいお米にな〜れ!)

は、ランチルームで一緒にとり、会話も弾みます。そして、食後の「お昼寝」は、用意のできた子から布団の敷かれた部屋に行きます。大好きなお兄ちゃん、お姉ちゃんの横に布団を並べて、安心して眠

「教えて。作って。」と、仲むつまじく過ごしている姿がたびたび見られます。個性を伸ばしながら、成長していることを実感しています。また、楽しみの「食事」

子どもたちには、活動に必要な時間と空間を十分に保障したいという願いから、「遊び」・「食事」・「昼寝」の時間と場所をそれぞれ用意しています。ある日のこと、トランプ遊びの神経衰弱を年長児が、小さい子に分かるように工夫して何度も教えていました。小さい子が分かってくれると、年長児は大変喜び、遊びはすいぶん盛り上がりました。小さい子は年長児にあこがれ、慕って、

互いに育ちあう子どもたち

一人とのかかわりの中で生きる力を培う

上灘保育所



(みんな大好き。楽しいね!)

園では、地域の人々とのかわりを大切に、指導を受けながら、田植えや野菜作りの体験もしています。全身泥んこになっての田植えや野菜栽培は、食育とのかかわりも考えながら行いますが、子どもたちにとっても一生懸命世話をした野菜等の収穫は、感動も大きいといえます。他にも「読み語り隊」の絵本の時間、エリザベス先生の「英語教室」、下灘保育所との「サッカー教室」、「小、中学生との交流」、「地域農園からの招待」等、各種交流は、子どもたちの楽しみです。このように子どもたちの生活リズムは変化しながらゆるやかに流れ、その中で、自己を発揮しながらお互いが認め合い、助けあっていく。そんな園生活ができるように、家庭、地域、保育所が一体となって、子どもたちを支援しながら見守っていきたいと思います。

人権・同和教育への取組

日々の学校生活を通して

伊予市立佐礼谷小学校

佐礼谷小学校では、「ふるさとに立ち、たくましく生きる力をもつ、心豊かな佐礼谷の子の育成」を教育目標にしています。一人一人の悩みや願いを受け止め、認め、戒め、支え合う仲間意識を育てる集団づくりに努めています。

全校話合い活動

小規模校の特性を生かしながら、「よりよくながりが合う児童の育成」を目指して、全校児童二十六名が一室に会って全校話合い活動を実施しています。

2009(平成21)年10月

全校集会の実施計画を立てたり、学校生活の諸問題の解決を目指したりして、積極的に話合いが行われています。七月には、「お楽しみ集会の計画を立てよう」



(活発に話合います)

のテーマで話合いました。

低学年児童は、自分の意見や考えが認められ、受け入れられるという安心感のもと積極的に発表をしました。高学年児童は、それぞれの意見を尊重しながらも、意見を修正したり、不足を補ったりして、全校児童が楽しめる集会になるよう話合いをまとめていきました。あたたかく互いを尊重し合う雰囲気の中、一人一人のよさを発揮することができました。子どもたちは、自分たちの力でやり遂げた達成感と、仲間意識をもつことができました。

おはようマラソン

年間通じて、毎朝「おはようマラソン」に取り組んでいます。全員が大きな声で「声だせ 汗だせ 力だせ」の合言葉をかけた後、個々の走力に応じて、力いっぱい走ります。低学年児童は上の学年のお兄さん、



(声だせ 汗だせ 力だせ)



(今日も元気にがんばろう)

お姉さんに負けまいと歯を食いしばります。高学年児童は、低学年児童をリードして走ることで、自然と走るペースがあがってきます。学年に関係なく真剣勝負です。児童一人一人は、走り終わると教職員全員と握手をしながら、あいさつを交わします。互いのがんばりをたたえ合い、心を通わす瞬間です。低学年児童は、お兄さん、お姉さんにあこがれ、高学年児童はその期待に応えようとすること、切磋琢磨し、共に伸びていくことができます。

日々の学校生活を通して、かけがえのない仲間づくりができています。児童一人一人が仲間とも、地域ともつながり、ふるさと佐礼谷を愛することができるよう願っています。これからも地域・家庭・学校が一体となって、人権・同和教育に取り組んでいきたいと思えます。



(開会行事・全体会風景)

「四国はひとつ」の言葉のもと、五十六回目を数える伝統のある研究大会が、今年も松山市で開催されました。同和問題をはじめさまざまな人権問題の解決を目指して、研究と実践の成果を報告し合いました。まだまだ残る差別問題と人権侵害に向き合い、「事実と実践に勝るものはなし」という先達の教訓を検証の軸として、報告者の実践を参加者全員が糧として広げていくことのできる充実した研究大会になりました。

第四分科会「人権確立をめざす地域の教育力」に参加しました。四県の取組や実情についての報告、質疑や意見交換が活発に行われました。地域の様々な取組の報告を聞き、自分自身深く考えるものがありました。果たして、自分自身がどれだけの知識があり、また、どれほど役に立っているかということでした。確かに職務上その係に自分が見れば、仕事として取り組みます。しかし、地域の一住民に戻った時、積極的に地域行事等にかかわっているだろうか。何もできていないと感じざるを得ませんでした。「地元のことだから」とそんな軽い気持ちでの参加のように思います。ということは、仕事であれば取り組みますが、そうでなければ、関心が薄れてしまうのです。自分が変わらなければ何も変わりません。このことは、すべてに通用することだと思っています。周囲の人間の意識を変えなければ、何も変わりません。



(アトラクション風景「心で語る」)

そのためには、この分科会のテーマの通り、地域のネットワークづくり、リーダーづくりが大切だと感じました。出前講座には、その良さがありませんが、反面、受身的研修にもなりかねません。そこから一歩踏み出して、自発的な研修が必要であるとも考えました。どのようにすればそうなるのかは、私には分かりかねますが、分科会場での討議を聞きながら、熱心に取り組んでおられる参加者の皆さんの発言は心に響きました。中心になって活動される人々とそれほどでない人々との温度差をなくしていくことから始めなければならぬと思います。自分をはじめ周りの人の意識を変えていく努力が必要だと感じました。



(分科会の様子)

第五十六回

四国地区人権教育研究大会に参加して

二〇〇九(平成二十二年)七月九日(木)・十日(金)

松山市

◆感想文紹介◆

「第五十六回 四国地区人権教育研究大会に参加して」

平成21年度 地区別人権・同和教育懇談会 郡中地区公民館

この懇談会は、公民館が学校・家庭・地域のかけ橋となり、住民参加のもと、人権を尊重する教育及び啓発活動を進める大変重要な事業です。

地区別懇談会という趣旨を生かし、映画教材の視聴後、グループでの話し合いも取り入れて、感じたことを中心に、和やかな雰囲気の中で話し合います。その後、講師によるまとめの講話をします。話し合いに参加することで、自分の人権感覚を見つめることができました。昨年は、視覚障害者の人権を主題にした映画でしたが、本年は、同和問題を中心にした映画です。地域や家族で子どもたちに同和問題を正しく伝え、差別を温存・助長するものは何かを考えさせ、さらに家庭教育の重要性を示唆する内容の濃い映画です。

同和問題をはじめとするさまざまな人権問題の解決に取り組むことが、住みよい社会づくりの第一歩であり、本懇談会はその任務を担っていると考えています。また、伊予市が推進している「身元調査おこわり運動」についても、お互い

がその重要性について再確認をしました。



(懇談会風景 話し合い)

講座のようす・参加者の感想

第十一期 オピニオンリーダー養成講座

同和問題をはじめ、さまざまな人権に関する諸問題について、正しい世論の形成を願い、地区別人権・同和教育懇談会等でのリーダー的な働きも担っていただきたいという願いを込めて、本養成講座を実施しました。49名が参加して、6月4日から7月2日までの間、5回の講座を開きました。5名の講師団が担当し、講義や参加体験型のワークショップ等で多面的な学習を行いました。人権が大切にされる地域づくりを目指し、例年6月に行っています。今年度も、目標を持つての自主的な研修で、充実した気持ちを抱きながら、講座を終えました。



ワークショップを真剣に考える受講者

参加者の感想

★ 講師の先生が、「差別はすぐになくせるものではありませんので、少しずつ変えていくことが大事なのです。」と話されましたが、その言葉に考えさせられました。少しずつ変えていくことがどれほど大変か分かります。私の尊敬している祖父母も部落差別に関しては気にしています。結婚については度々言われます。それを聞く度に悲しい気持ちになります。今日の学習で、祖父母と差別についてしっかり話をしてみようと思いました。おそらく私にも差別の心がどこかにあると思いますので、自分自身とも向き合って考えていきたいと思っています。

★ ワークショップの学習で、「人と話合うことが大切なのだ」ということを感じました。自分だけでは気付かないことも、様々な視点から眺めて語り合う中で、多くの発見につながることを実感しました。そして、相手の立場に立って考えることの難しさも感じました。客観的に見る自分が自分もできるといふ自信もできましたので、今後は意識して考えていきたいと思っています。



講師の話聞き、自分の考えをまとめる受講者

ワークショップ ちがいのちがい

自分たちの生活の中で、次のような場合、どう考えますか？

- あってよい
- △どちらともいえない
- ×あってはいけない

A病院では、入院患者さんにおじいちゃん、おばあちゃんと呼び、B病院では〇〇さんと名前で呼びます。



あなたはどう考えますか。

患者さんと呼ぶとき、いろいろな呼び方があると思います。どう呼ぶのがいいのでしょうか。いろいろな考え方がありますが…。話題にしてみませんか。

あなたはどう考えますか。



ぼくには何かにつけて男のくせにと親は言いますが、姉には女のくせにとは言いません。

男だから、女だからという基準で、「～のくせに」という言葉が出ることはありませんか。型にはめての認識、考え方があるのではないかと思いますが…。話題にしてみませんか。

第11回「人権を考える市民の集い」の開催

多くの人のご参加をお待ちしています



- ◆ と き：平成21年11月3日（火）9：00～12：00
- ◆ と ころ：伊予市市民会館大ホール（入場無料）
- ◆ 記念講演
演 題 マスオの人権問題考
「ことばはプレゼント」

講 師 ^{ます おか ひろし}
増岡 弘さん 声優・俳優

「サザエさん」のマスオさん役でおなじみの人気声優。文化学院美術科卒業。舞台美術関係の仕事から役者に転向し、アニメや洋画の吹き替えなど声優として活躍している。東京アニメーター学院講師を務め、劇団東京ルネッサンスを主宰。ナチュラルリストとしてのTV出演も多い。

■ 職歴・経歴

1936年 埼玉県岩槻市生まれ。青山美術研究所文化学院で油絵を学ぶ。

1954年 二科展に史上最年少で入選。

当初は舞台美術の仕事をするが、その後、役者に転向。俳協に所属。

映画「ガラスのうさぎ」、テレビ「夏、青春物語」(TBS)などに出演。

1986年 劇団東京ルネッサンスを創立し、代表となる。

また、柳家さん助門下となり、益々家ちゃん助(ますますやちゃんすけ)の名で、年2回“落狂(らつきょう)寄席”を開催する。

声優としては、マスオ役の他「それいけ!アンパンマン」のジャムおじさんとして活躍中。

■ その他の活動

手作り味噌を作る自然法人“みそひともんちゃく”を1979年に結成。現在、会員約120家族で会報を発行し、品評会を開催。

■ 著書

『陽だまりのマスオさん』

『マスオさんの美味しい味噌づくり』

『マスオさんのみそづくり指南』